



ゲンちゃんと学ぼう

徳島の歴史舞台



いちのみやじょうあと

一宮城跡

せんごく

戦国時代

とくしま

し

いちのみやちょう

にゅうたちょう

[徳島市一宮町・入田町]

B.C.					5世紀					10世紀					15世紀				20世紀	
------	--	--	--	--	-----	--	--	--	--	------	--	--	--	--	------	--	--	--	------	--

学習する時代

一宮城は室町時代の初めごろに造られ、江戸時代の初めまで使われた城です。

戦国時代にはこの城で激しい戦いが行われました。城はふだんの生活をするための
さとじろ里城と、戦いのときに立てこもるための山城にやましろ分かれています。山城には山の斜面を掘ったり、整形したりして造られたいろいろな城を守る仕組みが設けられており、徳島県でもっとも大きなものです。



一宮城本丸跡



一宮城から見た徳島

学習のねらい

(1) 一宮城の立地や施設などから戦国時代の徳島県の様子について考えさせる。

解説

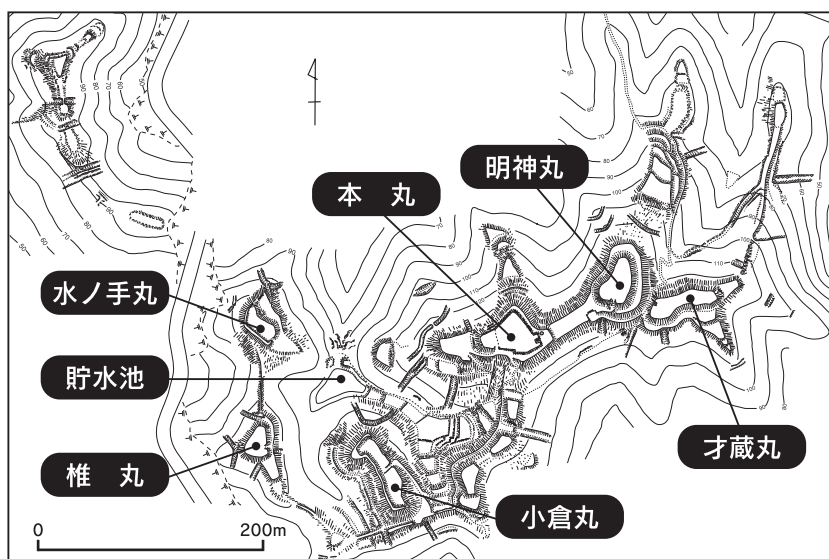
一宮城は徳島市一宮町、入田町にまたがる場所にあります。城は大きく分けて、戦時の山城と平時の里城に分かれています。山城は南から延びてくる尾根上にあり、標高約144mの本丸を頂点として、そこから延びる枝尾根に明神丸や才蔵丸などの複数の曲輪が配置されています。また各所に尾根を切断するように掘られた堀切や空堀、山の斜面を縦に掘った竪堀などの防御施設が設けられており、徳島県で最大の規模をもっています。里城は本丸の北東約500mに位置していたと考えられます。現在は御土居、おうまやなどの地名が残っており、平時の城主居館でした。

城は南北朝の争乱期に鎌倉時代から阿波国守護であった小笠原氏の一族(一宮氏)によって築かれました。それ以後代々一宮氏の居城でしたが、1582年土佐の長宗我部氏の阿波侵攻後、その家臣が城を治めていました。このころの阿波国内の戦いや1585年豊臣秀吉の四国平定など、一宮城は激しい戦いの舞台となりました。その後豊臣秀吉から阿波を与えられた蜂須賀家政が入国した際、当初は一宮城を居城としていました。国主の居城は翌年新たに築かれた徳島城へと移りましたが、その後も阿波九城の一つとして重要な拠点の役割をもっていました。1638年徳川幕府の一国一城令により廃城となりました。

現在残っている本丸の石垣などの遺構は、蜂須賀家政の阿波入国後の修築によるものです。城は幾度もの戦いを経ていく中で、築造時から何度も修築・改修を重ねていたことが考えられます。城跡やその周辺についての発掘調査はまだほとんど行われていないため、遺構の時期や時代ごとの変遷など不明な点は多く残っています。今後の調査・研究の進展が期待されます。

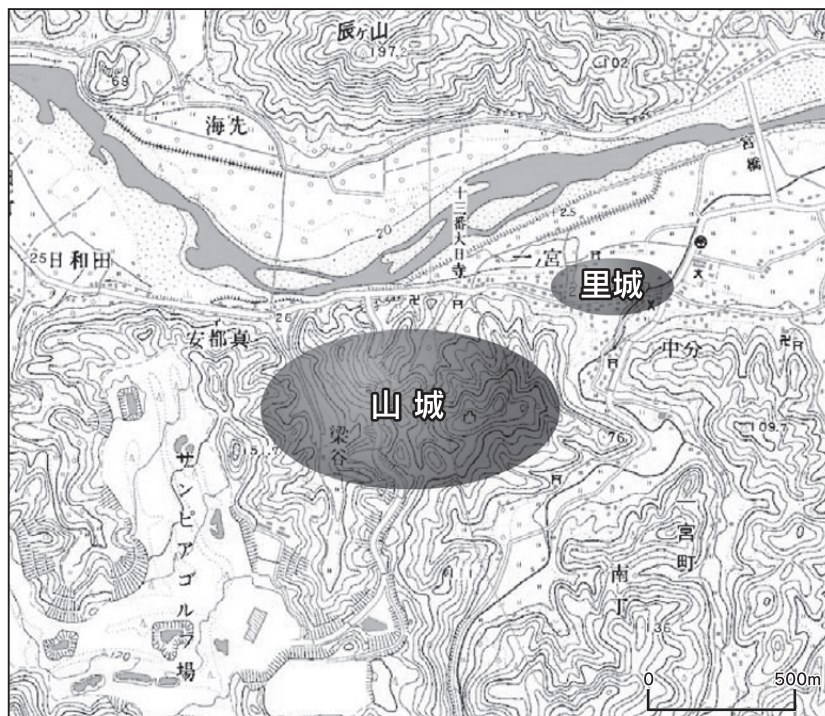
■一宮城縄張り図

(「阿波一宮城」より引用、改変して使用)



■一宮城の位置

(国土地理院発行1/2.5万地図「石井」をもとに作成)



■室町時代から江戸時代初めの主な城跡・史跡

